

## 眼科

### ■ スタッフ

科長	近藤峰生	
副科長	生杉謙吾	
医師	常勤	13名
	非常勤	6名
視能訓練士		7名

### ■ 診療科の特色・診療対象疾患

#### 眼科の特徴

三重大学眼科では、現在、あらゆる眼科疾患（眼形成・眼窩疾患分野を除く）に対して、診断と治療をおこなっています。

初診外来は月曜日から金曜日の 8:30～11:00 で、紹介状をお持ちでない初診患者さんの診察も受け付けています。（紹介状をお持ちでない場合、別途「選定療養費」がかかります。）特に火曜日と水曜日の教授外来には、難治性の網膜疾患の方を中心に全国から患者さんが受診されています。再診は 予約制となっています。

三重大学眼科が得意とする疾患は、網膜硝子体疾患（糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑前膜などの診断と手術治療）、加齢黄斑変性（抗血管新生療法、光線力学的療法）、網膜変性疾患（網膜色素変性、黄斑ジストロフィーなどの診断とリハビリテーション）、角膜疾患（角膜外傷、角膜ジストロフィー、角膜混濁に対する角膜移植術）、涙道疾患（鼻涙管閉塞に対する内視鏡手術や耳鼻科との合同手術による涙囊鼻腔吻合術・鼻内法）、緑内障（難治緑内障に対する手術治療）、白内障（小切開超音波白内障手術）、斜視・弱視（屈折矯正と斜視弱視訓練及び手術）、小児眼科（先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの小児眼疾患）、ぶどう膜疾患（サルコイドーシス、ベーチェット病、原田病など）です。

また眼科医が 24 時間 365 日院内待機をしている県内では数少ない病院の一つで、特に眼外傷の緊急手術など、眼科二次救急を担当しています。

### ■ 診療体制

#### 主な専門外来

三重大学眼科では、特に専門的治療が必要な疾患、治療の困難な疾患、頻度の高い疾患については専門外来を設け、その分野についてのエキスパートが

治療を担当します。

#### 1) 教授外来

近藤教授の外来には、難治性眼疾患の患者さんをはじめ、全国からあらゆる眼科疾患の患者さんが受診されていますが、特に教授の専門分野は、網膜硝子体疾患、網膜の機能評価（臨床視覚電気生理）です。

#### 2) 網膜硝子体外来

網膜剥離、黄斑部疾患（黄斑上膜、黄斑円孔、黄斑浮腫、中心性漿液性網脈絡膜症など）、網膜静脈閉塞症、網膜動脈閉塞症、増殖硝子体網膜症、硝子体出血などの診断および治療をおこないます。特に重症型糖尿病網膜症、日本でも中途失明原因の上位となっている加齢黄斑変性という網膜の中心部に異常を来たす疾患の専門治療もおこないます。手術治療が中心となることが多いですが、加齢黄斑変性に対しては、蛍光眼底造影検査などによる正確な診断と硝子体注射と呼ばれる眼内注射治療および光線力学的療法をおこなっています。

#### 3) 緑内障外来

日本でおこなわれた大規模調査によると、40 歳以上の日本人では 20 人に 1 人の割合で緑内障患者が存在すると言われていています。また日本における失明原因のトップは緑内障です。緑内障外来では、最新の検査機器を使った早期診断から長期的な点眼治療、重症例に対する手術治療まで緑内障のトータルケアをおこないます。

#### 4) 角膜外来

角膜感染症（細菌、真菌、ウイルスなど）、ドライアイ、円錐角膜、水疱性角膜症や遺伝性の角膜疾患などの診断と治療をおこなっています。特に角膜感染症の迅速診断や角膜移植治療を積極的にこなっています。

#### 5) コンタクト外来

円錐角膜や角膜の強い乱視などの眼疾患があり、通常のコンタクトレンズができない方を対象に経験豊富な角膜専門医がコンタクトレンズの処方をおこないます。

#### 6) 涙道外来

成人の鼻涙管閉塞症、乳幼児の先天鼻涙管閉塞症に対し、涙道内視鏡を用いた検査及び治療をおこなっています。また当院耳鼻咽喉科とも連

携し、流涙症に対し顔に傷が残らない涙嚢鼻腔吻合術鼻内法をおこなっています。

7) 小児眼科外来

視機能発達の重要な時期にある小児が罹患する斜視、弱視、先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症などの疾患の診断、治療をおこないます。また視能訓練士という国家資格を有する7名の専門スタッフが丁寧に時間をかけて小児の検査・訓練をおこないます。

8) ロービジョン外来

現在の視機能を評価し、読み書きのための道具（ルーペ、拡大読書器、音声パソコンなど）の選定、白杖、日常生活補助具の紹介や身体障害者手帳申請の相談、視覚障害者用社会福祉関係の施設や職能訓練施設の情報提供などをおこなっています。ロービジョン外来は、完全予約制です。

テノン嚢注射	109
--------	-----

\*総手術件数には硝子体注射及びテノン嚢注射を含まず。

4) 主な施行手術と件数 (件)

手術名	28年度
硝子体手術	313
網膜復位術	23
白内障手術	840
角膜移植術	6
緑内障手術	108
斜視手術	49

■ 治療実績

1) 外来患者数 (人)

	28年度
総外来患者	29,522
総初診紹介患者	1,549
県外からの紹介患者	58
小児(15歳以下)の紹介患者	187

\*特に平成27年度は眼底三次元画像解析検査11,740件、涙管チューブ挿入72件などを外来にて施行

2) 入院患者数 (人)

	28年度
総入院患者(人)	7,674
平均在院日数(日)	5.6

3) 外来及び入院での手術及び眼注射件数 (件)

	28年度
総手術件数	1,887
硝子体注射	2,266

■ 臨床研究等の実績

当科からの論文発表や学会発表実績は以下の通りです。(平成28年度の代表的なもののみ掲載)

<英語論文>

- Sugimoto M, Kondo M: Lecithin-Bound Iodine Prevents Disruption of Tight Junctions of Retinal Pigment Epithelial Cells under Hypoxic Stress. J Ophthalmol: 9292346. 2016
- Matsubara H, Miyata R, Kobayashi M, Tsukitome H, Ikesugi K, Kondo M: A Case of Sustained Intraocular Pressure Elevation after Multiple Intravitreal Injection of Ranibizumab and Aflibercept for Neovascular Age-Related Macular Degeneration. Case Rep Ophthalmol. 7(1):230-6. 2016
- Takashima Y, Sugimoto M, Kato K, Kozawa M, Ikesugi K, Matsubara H, Kondo M: Method of Quantifying Size of Retinal Hemorrhages in Eyes with Branch Retinal Vein Occlusion Using 14 Square Grid: Inter-rater and Intra-rater Reliability. J Ophthalmol. 1960190. 2016
- Ikesugi K, Ichio T, Tsukitome H, Kondo M: Annual incidences of visual impairment during 10-year period in Mie prefecture, Japan. Jpn J Ophthalmol 61(4):293-298. 2017
- Sugimoto M, Ichio A, Nunome T, Kondo M: Two year result of intravitreal bevacizumab for diabetic macular edema using treat and extend protocol. Medicine (Baltimore) 96(16):e6406. 2017

- Sugimoto M, Nunome T, Sakamoto S, Kobayashi M, Kondo M: Effect of intravitreal ranibizumab on the ocular circulation of the untreated fellow eye. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 255(8):1543-1550. 2017
- Matsubara H, Matsui Y, Miyata R, Nishimura Y, Yamamoto T, Tanaka T, Kondo M: New photic stimulating system with white light-emitting diodes to elicit electroretinograms from zebrafish larvae. *Doc Ophthalmol*. 2017 Jul 29. doi: 10.1007/s10633-017-9602-1. [Epub ahead of print]
- Kato K, Miyake K, Kondo N, Asano S, Takeda J, Takahashi A, Takashima Y, Kondo M: Conjunctival Goblet Cell Density Following Cataract Surgery with Diclofenac Versus Diclofenac and Rebamipide: A Randomized Trial. *Am J Ophthalmol* 181:26-36. 2017
- <邦文論文>
- 近藤峰生、篠田啓、松本惣一、横川直人、寺崎浩子：ヒドロキシクロロキン適正使用のための手引き。日本眼科学会雑誌 120 (6) : 419-428. 2016
- 宮田真衣、宮田良平、小澤摩記、松原央、築留英之、西脇弘一、近藤峰生：手足口病後に unilateral acute idiopathic maculopathy を発症した 1 例。臨床眼科 71 (1) : 97-102. 2017
- 一尾享史、杉本昌彦、近藤峰生：硝子体手術後に遷延する糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシノロンアセトニド硝子体内注射。日本眼科学会雑誌 120 (6) : 429-438. 2016
- 小林真希、松原央、古田基靖、近藤峰生、北大路浩史：乳頭小窩のない非強度近視眼に発症した黄斑部網膜分離症の 2 例。眼科 58 (4) : 495-504. 2016
- 坂本里恵、松井良論、田中弥生、松原央、近藤峰生：異なる視機能経過をたどった可逆性白質脳症の 2 症例の検討。眼科 58 (9) : 993-998. 2016
- 若松（濱地）泰子、小澤摩記、近藤峰生：Dome-shaped macula に伴う漿液性網膜剝離を合併した完全型先天停在性夜盲の 1 例。臨床眼科 70 (6) : 923-927. 2016
- 岡晃子、宮田良平、築留英之、近藤峰生：眼球運動障害が軽度な強度近視性斜視に対して右眼に上外直筋縫着術（横山法）を施行し、術後複視を訴えた 1 例。眼科 58 (6) : 697-700. 2016
- 永嶋竜之介、菅原朝子、内山恵理子、松原央、加藤久美子、近藤峰生：網膜疾患に対する RETeval™ Complete の使用経験。眼科臨床紀要 9 (12) : 988-994. 2016
- <邦文書籍>
- 近藤峰生：1) 網膜硝子体疾患の電気生理学的検査 ① ERG (網膜電図)。眼科検査ガイド 19.電気生理検査 : 612-617. 文光堂. 東京. 2016.9
- 近藤峰生：黄斑ジストロフィ。今日の眼疾患治療指針 : 549-551. 医学書院. 東京. 2016.10
- 近藤峰生：錐体ジストロフィ。今日の眼疾患治療指針 : 551-552. 医学書院. 東京. 2016.10
- 近藤峰生：先天停在性夜盲。今日の眼疾患治療指針 : 552-553. 医学書院. 東京. 2016.10
- 近藤峰生：急性帯状潜在性網膜外層症。今日の眼疾患治療指針 : 588-589. 医学書院. 東京. 2016.10
- 近藤峰生：2. ビタミン A 欠乏症。眼科臨床エキスパート 網膜変性疾患診療のすべて。第 2 章 総論 IV 網膜変性疾患の診療の実際 : 163-166. 医学書院. 東京. 2016.11
- 近藤峰生：C 先天停在性夜盲。眼科臨床エキスパート 網膜変性疾患診療のすべて。第 3 章 各論 I 非進行性疾患 : 253-258. 医学書院. 東京. 2016.11
- 松原央：1) 超音波検査 (網膜硝子体)。眼科検査ガイド 21.超音波・放射線・画像診断 : 654-659. 文光堂. 東京. 2016.9
- <招待講演>
- Kondo M: Clinical usefulness and new topics in electrophysiology. All India Ophthalmological Society. Jaipur, India. 2017.2.17
- Kondo M: Diagnosis of retinal diseases using imaging and functional testing. All India Ophthalmological Society. Jaipur, India. 2017.2.19
- <シンポジウム>
- Kondo M: Dr.Yozo Miyake and his achievements. The Fifth Global Chinese Ophthalmic Conference Sino-Japan Miyake Clinical Visual Electrophysiology Forum. Suzhou, China. 2016.9.9
- Kondo M: Clinical application of new, small hand-held ERG device for diagnosis of retinal diseases. The Fifth Global Chinese Ophthalmic Conference Sino-Japan Miyake Clinical Visual Electrophysiology Forum. Suzhou, China. 2016.9.9
- Kondo M: ERG in Acquired and Inflammatory Retinal Disease. APAO 2017. Singapore. 2017.3.3
- <教育講演>
- Kondo M: Assessing macular function – Electrophysiological techniques. ARVO2016 Education Course. SEATTLE. 2016.4.30
- Kondo M: Clinical Application of mfERG. ISCEV2016. Singapore. 2016.8.13
- Kondo M: A Clinical Diagnostic Approach to Retinal Disease. ISCEV2016. Singapore. 2016.8.14
- (その他の業績等は、下記の三重大眼科公式ホームページをご覧ください。)